

WEEKLY SIGNAL

2020年3月13日(金) 1516号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

3/16(月)		3/17(火)	3/18(水)	3/19(木)	3/20(金)
無担保O/N			△ 0.087% ~ 0.001%		
銀行券	+ 400	ト ン	△ 1,000	△ 1,000	
財政他	+ 2,500	△ 2,000	+ 6,000	+ 12,000	
資金需給	+ 2,900	△ 2,000	+ 5,000	+ 11,000	
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(個人) 国債償還(2年)				
オペ期日	CP買入 △ 300 国債買い現先 △ 7,200 共通担保(全) △ 10,100 補充供給 + 2,700		貸出増加 △ 23,500		祝日
オペスタート	国債買入 + 2,100 共通担保(全) + 8,800 ETF買入 + 400				
(日本)		鉱工業生産(確報)(1月)	日銀金融政策決定会合1日目 貿易収支(2月)	日銀金融政策決定会合2日目 黒田総裁記者会見 全国CPI(2月)	
(海外)	米 ニューヨーク連銀製造業景況指数 (3月) ユーロ圏 財務省会合	米 FOMC(18日まで) 米 小売売上高(2月) 米 鉱工業生産(2月)	米 FOMC声明発表 議長記者会見と経済予測 ユーロ圏 CPI(2月)	米 経常収支(10月-12月) 米 フィアデルフィア連銀製造業景況指数 (3月)	

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.010 ~ 0.020
SPOT 2M	△0.010 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.130

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は、週初392兆3,200億円から始まった。11日には国債発行があり390兆4,800億円まで減少した。12日に国庫短期証券・国債買入オペがスタートし391兆8,700億円まで増加したものの13日に国債発行があり391兆2,400億円を越えた。
無担保コールON物加重平均金利は、週初から足許の資金放出ニーズの増加に伴い、地合いは徐々に低下基調となり△0.067%～△0.060%で推移した。
一方ターム物取引は資金運用に目途を付けている先も多く、オファーが薄かったため閑散としていた。
今週の主な金融市場動向として、11日にはBOEが緊急利下げを実施し、政策金利を年0.75%から年0.25%とした。
また、13日には約1年7か月ぶりに予定外の国債買入オペ(残存期間5年超10年以下)が2,000億円オファーされ7,837億円の応札があった。
来週の主な予定は、国内では日銀金融政策決定会合(18-19日)黒田総裁記者会見(19日)、海外ではFOMC(17-18日)ユーロ圏CPI(2月)(18日)等が挙げられる。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.001 ~ 0.000
TDB 3M	△0.280 ~ △0.230
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

＜C P＞

今週の入札発行総額は約7,100億円で、週間償還額(約1兆100億円)を下回った。発行市場は、石油や電気機器等の大型案件もあったが期日償還や減額も多く、償還超となった。発行残高は、先週末の24兆839億円から12日時点で24兆3,000億円程度の模様。発行レートは上昇地合いとなり、マイナスレートでの発行は期越えのレア銘柄にとどまり、多くの銘柄で0%からプラスレートでの出合いとなった。
来週の週間償還額は、約1兆300億円となっている。発行市場は、有利子負債の圧縮ニーズからの期日償還が予想され、やや閑散な市況となるだろう。発行レートは、引き続き上昇地合いで、0%からプラス圏内での出合いが多くなると思われる。18日に、CP等買入れオペが3,500億円でおファーされる予定となっているが、新型コロナウイルス対策もあり4日同様増額オファーが予想される。

＜TDB＞

9日の6M893回債(6月10日償還)入札結果は、最高落札利回り△0.2516%(前回債△1375%)、平均落札利回り△0.2872%(前回債△1395%)であった。12日までは4月償還物が△0.290%～△0.270%、3M892回債(6月8日償還)が△0.32%台、6M893回債(6月10日償還)が△0.260%～△0.250%のレンジで取引された。13日入札の3M894回債(6月15日償還)の入札結果は、最高落札利回り△0.1824%(前回債△0.2505%)、平均落札利回り△0.2385%(同△0.2697%)となり、入札後は△0.265%～△0.200%のレンジで出合いが見られた。そのほか6M893回債(9月10日償還)が△0.250%、1Y889回債(2月22日償還)は△0.250%～△0.225%のレンジで取引された。来週は、17日に1Y、18日に3Mの入札が予定されている。

＜レポ＞

足許GC取引は週初△0.1%台半ばから出合い始め、週央までは△0.115%～△0.08%で推移。13日受渡しでは、引け間際にレートが急低下する場面も見られた。TDB3Mの発行があった16日受渡しは前場△0.2%前半で取引され、後場は△0.1%前半まで上昇した。
SC取引は2年405～410回債、5年137～142回債、10年334～357回債、20年164～171回債、30年59～65回債、40年9～12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。